

ねんりんピックが語る

「励めば楽しい」

副会長 木村 喜久雄

全国健康福祉祭(ねんりんピック)が、昨年11月10～13日の会期にて茨城県各地において開催された。弓道交流大会は、水戸市が事務局を担い、重要な役割を果たされた。

また、本県弓道連盟も協力団体として運営上大きな関わりをもち、無事、盛会裡に終了することができた。これは、本県弓道界総力の結集の賜であり、感謝いたすところである。

本大会について改めて解説するまでもないが、文系や運動系などの分野で活躍している60歳以上の男女高齢者が、各県の代表選手として一堂に集まって技を競うとともに、選手相互が健康を祝福し合うという、正に高齢者の福祉大会である。

因みに、各種目別の開会式においては、選手の中の最高齢者やこれに準ずる者に対し、健康を祝う特別賞なるものを授与することが通例となっており、今回の弓道交流会では、最高齢選手が87歳、準じて茨城県の84歳の会澤 久(鎌

士)氏がこの栄誉に浴された。

80歳代になっても運動系の選手として、全国大会で活躍するということは弓道の特長ではあるが、素晴らしいことであり誇れるものである。

特別賞の会澤 久氏とは稽古などで一緒にいることがあるが、年齢の高さに甘んずることなく、矢取りも進んで行い、黙々と稽古に打ち込む姿は若々しく、また、自己進化の可能性を内に秘めているようにも見え、感服しているところである。

「私はトシだから・・・」とか「不器用だから・・・」などと耳にすることがあるが、この言葉を聞く者の気持ちを暗くするだけでなく、この言葉を誰よりも先に耳にしている自身が、自己の向上心にどのような悪影響を与えているか?を考え、改めるように願いたい。

トシの積み重ねで筋力の衰えは免れない。しかし、弓力の調整や稽古の質などを工夫し、ハンデの克服のために励むことである。

また、不器用(?)と想っている者も自己の進化を信じながら稽古に取組み、楽しく弓道に努めることである。

進歩が早い・遅い・上手・下手は、他者との比較語であって、真

の評価語ではない。むしろ、自分が弓道の規範を真剣に学んでいる、というプロセスが重要なことである。

さらに、健康で道場通いができることの幸せを実感し、日々充実感ある過ごし方をされるように希望して止まない。

特集

中野慶吉先生と私

天 冴子

昭和三十六年に教職員のレベルアップをはかる事を目的として、稲田にお住まいの中野先生のお宅へ行く会をつくりました。約三十名のグループで一週間に一回向う

ことにして、私もそのグループの一員となりました。その時が先生との初めての出会いでした。それから約三ヶ月経ったとき、社会科学の山田先生(戦前は朝鮮学校の校長)と私の二人になってしまいました。

「今日は二人になってしまいました」というと、先生は「今日から弓を引いてみませんか」と。私は女学校三年の時弓道部を新設し、飛二段をいただき、続いて弓道の道に進みたくて、日本体育専門学校(現在の日本体育大学)を目指



中野慶吉先生を囲んで(1968年撮影)

したもので、先生の声かけに飛びつく思いで「ハイ」と答えました。いざ弓を持ったとき、二十年の空白があり、先生のご指導が夢の様でした。落ち着いてみると、私は武徳会流で斜面打起しでしたので、正面打起しになかなかならず、まして大三をとる時、手の内が出来ず苦労しました。

勤務する笠間高校に弓道部を新設するとき、中野先生が校長に話をしてくださり、さらに道場開きには中野先生が引目をして下さいました。それは昭和三十八年五月末のことでした。その時から責任を感じ、先ず自分を磨かなければならないと決心し、私の弓道生活が始まりました。

「貴女の後にはいつも生徒がいる。教師の姿を見て生徒が育つ」といわれ、無我夢中で弓と取り組み、半年ごとに昇段できました。ある日主人と一緒に道場を訪ねたとき、主人に「奥さんは五段までの腕でしょう」とおっしゃったと聞かされ、私は密かに「絶対に六段に挑戦しよう」と固く心に誓いました。

後になって気付くと私が五段で甘んじないようにとの深いお考えだったのでしよう。初めて「京都の審査に参加しなさい」といわれたのが昭和四十一年で、一次合格といわれ二次も無事通過しました。昭和四十四年十一月三日の明治神宮奉納大会で一般女子の部に出場し、仮設道場的の数も二十数

個列び、自分の的をつかむのに苦労しました。第一回戦より勝ち進み十数名に残ったとき、一本入れて気をぬかぬ様に、まだまだ後があると気が落ちない様にと構えていると、「優勝者、茨城県天冴子さんです」とアナウンスがあり、びっくりしました。しかもその時中野先生が全日本弓道連盟の会長で、先生が賞状を高らかに読み上げ、笑顔で「よかったね」とおっしゃいました。あの瞬間のお顔が忘れられません。ところが翌日道場へ行くと「何が優勝だ。アンナ合わせ離れで」としかられました。

私の心のおごりを押さえて下さった事なのです。そのお陰で翌年の昭和四十五年十月の全日本弓道大会では五位に入賞出来ました。

昭和四十年代のある日「天さん、体操の審判員をやっているのだから、弓もそういう方向に出来ないか、つくってもらいたい」ということになり、八節をもとにして、足踏みの開き方、狭すぎ、広すぎ、親指の一直線の狂いなどに0.7と0.3の減点とか・・・出来上がった先生にお見せすると「まず高校の試合に使用して御覧」といわれ、関東高校弓道大会に使用してみると、技能優秀者、団体決定に素晴らしい効果がありました。

なかなか六段がいただけなかったで、焦りも手強い、五年経った秋十一月二十三日に熊本での審査を受けたのですが失敗しました。その時の九州勢の鋭い離れを見て、あれでなければと研究し、翌年の五月京都で二本的中しましたが、明日の勤務に間に合いそうもないので結果を見ず、先生にお願いして帰ってきました。後日先生が県人の方々に「天が満蒙で合格した」喜んでいた由と聞き、何よりもよかったですと思いました。

先生の指導の中で、時に「射品射格を身につける様に」と言われましたが、毎日の練習の中で、心

構え、人間として生きてゆくために、生き様を考えるようにといわれ、どうしたらそれが身に付くことが出来るのか・・・。当時はわからないまま、呼吸と動作を結びつける事を練習しましたが、道場に入場してから退場まで、呼吸をつけることは退場口まで行くと「ハア・ハア」の連続でした。

また全日本選手権大会のとき、神戸の竹内修先生から「海外旅行をして見る気はないか」といわれ「私は行きたいのですが、中野先生が天の弓など日本の恥といわれるのではないですか。中野先生のお許しが出なければ行かれせん」とお話ししました。後日竹内先生からお話しました。後日竹内先生から「中野先生にお話したところ、天もそろそろ海外に行き、苦勞することも、自分を見いだすのに大切なことなので、宜しく頼む」と言われたそうです。

昭和五十六年二月、フランスのニースと日本の神戸が姉妹都市を結んだお祝いにニースの祭りに日本武道家が招待され、弓道家も行ききました。最終日イタリアのローマで前年亡くなられた方の追悼式があり参加し帰国しました。中野先生がおっしゃっていた通り、フランスなどの和弓への熱は高く、私たちの動作一つ一つを学ぼうと、カメラを向けられました。従って

立居振舞いが真剣になりました。翌五十七年にもう一度来て欲しいという要望に応え、範士の先生方は忙しく参加できないため、段位から言うところ「貴女が最高段位で行くので、そのつもりで・・・。」といわれたことで奮い立ちました。イギリス・オランダ・スイス・フランス・イタリアと五カ国を回り、各国で模範演技を一手を一回しか出来ませんでした。不思議にも一本もミスを出さずにすみました。特にフランスではルノー(自動車会社)の社長が価値のあるものならば、道場を建てることも考えるというお話しに感激しました。帰国して中野先生にご報告に伺い「大変でしたが、一杯勉強してきました。ありがとうございました」と胸一杯になり言葉が出ませんでした。

今つくづく考えながら筆を走らせていると中野先生が私をどのようにつくりあげようか、と深くお考えの上に、叱ったり、ほめたりして私の現在があるのだと気が付きました。大きな先生に包まれてきた私の幸せな二十四年間でした。昭和六十二年十一月二十二日逝去、お年は八十六歳でした。お別れの言葉は「茨城の女子部を頼むぞ」の声が今も私の耳元にタココ様になっています。

ねんりんピック

弓道大会を終えて

副理事長 白石 直之

第20回全国健康福祉祭いばらき大会「さわやかな長寿の風を茨城に」ねんりんピック茨城2007弓道交流大会」が堀原運動公園武道館を会場に平成19年11月10日から12日の3日間開催されました。本大会は厚生労働省、茨城県、長寿社会開発センター及び開催地の水戸市が主催で、事業を委託された茨城県弓道連盟が主管の大会でした。参加者は道府県(45)・政令指定都市(17)・東京(2)及び本県2チーム計66チームのうち64チーム(宮城・和歌山が不参加)、合計447名の選手が集う大会でありました。

大会第1日は大道場で開始式が行われました。雨が降るあいにくの天候でしたが、会場は暖房も入って、熱気に包まれました。アトラクションは当初計画してありませんでした。小川支部の大貫富士男氏のご夫人が所属する「小川太鼓」から協力依頼があり、開会式前に演奏頂き大変盛り上がったことに感謝致します。

第2日の矢渡しは、ねんりんピックにふさわしいと田原トシ先生(94歳)にお願いしておりました。急遽柴田会長にお願いし見事な射を披露して頂き見学者に大きな感動を与えられました。

競技は予選1回戦及び監督・補欠選手による交歓試合が行われました。あいにくの雨で大変肌寒い日となつてしまし、役員の方々は厳しい1日となりましたが、献身的な協力によりスムーズな運営ができたことに改めて感謝して

柴田会長から副理事長が担当するよう指示があり(ちなみに北島副理事長は19年3月本県で開催の全国高校選抜大会を担当された)、弓道競技の責任者として水戸市実行委員会と連携して準備を進めてきました。基本的には文書関係、控え室、おもてなしコーナー、開

会式等大道場関係は水戸市実行委

講師、当日会員の皆様その他の協力支援をいただき、つつがなく諸行事を実行できました事深く感謝申しあげます。

昨年度は、講習会を主体に会の運営を実施してきましたが、そこで気がついた点について述べてみたいと思います。

①誰のための講習会か・・・会員の技量、人間向上が目的。

②どのように取り組めばよいか・・・白いノートに講師の指導事項をメモする。

自分の考え、思いをその他に置き、自分の中に講師の指導事項を取り込み、自宅に帰ってから自分に合うように取り込む、得てしてその時には理解できなくても、ある時、あの時の言葉は、これを言っていたのかと理解できることが多い。

③今日の講習会は、自分にとって有意義だったか・・・もし有意義でなかったら、それは、自分の参加態度に不足は無かったか？

参加の服装は、出席時間は、見取り稽古は、休憩時間以外の休憩は、忘れ物や間違いは、他人に求めるのではなく、自分に不足があるからそうなるのでは？人に言われてやるのが修行、言われなくてもやるのが修行、昔の歌謡曲にこういうのがありました。

皆さんは、どちらでしょうか？

明正会の活動

理事長 岩間 捷雄

昭和五十五年の中野慶吉範士、関宗長範士の指導を受けて発足した明正会も今年で二十九年目となり、来年は三十路を迎えます。回数も一五九回となります。

田原トシ先生（範士八段）を名誉会長に、顧問中山三千夫先生、会長堀江栄先生のもと会員三十五名は『休めば錆びる』を合言葉に楽しく実ある研修を積み重ねていくとこです。

明正会役員紹介

- 名誉会長 田原 トシ
- 顧問 中山 三千夫
- 会長 堀江 栄
- 副会長 綱川 久子
- 副会長 介川 達
- 理事長 岩間 捷雄
- 副理事長 濱野 昇
- 会 計 齋藤 ミユキ
- 理 事 山口 みち
- 理 事 関島 勝
- 理 事 櫻井 和子
- 理 事 山崎 和雄
- 監 事 會澤 久
- 監 事 田村 章

研修活動

六地域での研修活動が実施されます。（水戸、石岡、土浦、東海、大子、友部）

矢渡し（前回優勝者）には始まり、射詰、射込競射（十二射全て座射）、射技研修と射法・射技の研修を積むことと、射品・射格の向上を目指した修練により、会員一人一人の技能の向上を目指した研修が展開されます。

全国大会ねりんピックへの参加者も、毎年、会員の中から選出されています。

思い出の忘年射会

大子会場では、一泊で忘年射会が開かれ、会員相互の親睦を図ることができました。写真は第二日目の参加者です。大子町の「いで湯」で身を温め弓道談議に花を咲かせた有意義な二日間でした。会員の親睦を図ることも、活動目標の一つです。

入会について

男性六十五歳、女性六十歳以上の制約がありますが、多くの方の入会をお待ちしています。

女子部

平成十九年のあゆみ

部長 天 冴子

毎年のことながら、桜の花が咲き、「さあ今年も頑張るぞ！」と、四月一日、柴田先生を講師にお願いし、行く先に光明をみつけた様な思いで、封を切りました。

女性が弓の勉強をすることは、非常に困難であるためなかなか技が身につけません。その事を申し上げ、引分けから会での背中筋肉の使い方を（上半身をぬぎ）見せていただき、その重要性について勉強しました。昼休みの総会は年間予定を話し、役員改正は留

任となりました。その後、時間いっぱい射技研修を行いました。

七月十三・十四日の講習は昨年好評だった秋山照美範士に今年もぜひとの要望があり、連絡をとり心よく来て下さいました。特別講習として四段以上と限定したので、人数的にスムーズな運営が出来ました。体配について細かく指導されました。特に入場の時の足先の

向け方、五人が足をそろえて歩く、体の方向は全員がそろおうよう。跪座の時の膝の生かし方、乙矢のうちこみ方、退場の礼の足先きの向け方等々、何度もやり直しをしました。女子特有の襷さばきの指の使い方、また、持的、一つの礼射を行い二日間の日程を時間いっぱい行ないました。

八月二十五日の講習会は講師の先生の都合がつかず、研修会に切りかえて四月の柴田先生の射術についてと、秋山先生の体配の心くばりを研修しました。参加者の心構えが今まで以上に真剣になって来た様です。

九月二十六日（土）第二十九回女子弓道大会。一チーム三名の団体戦と個人戦、全十九チーム（五十七名）。昨年度射形優秀者の稲石京子五段（土浦）の矢渡しに始まり、一手座射、四つ矢（立射）合計的中数上位八チームによるト



1 ナメントを行ないました。
結果

射形優秀者 高羽京子(水戸) 団体

優勝、水戸Cチーム

萩野谷綾子 川俣幸子

市毛道子

二位、茨城町チーム

飯田純子 福田直子

廣水千加代

三位、水戸B、水戸A

個人 優勝村上美保(友部)、二

位根本利江(東海)、三位飯田純

子(茨城町)、四位市毛道子(水戸)、

五位綱川久子(友部)、六位川俣

幸子(水戸)、七位白土俊子(ひ

たちなか)、八位柴沼睦子(笠間)、

九位塩津多恵子(水戸)、十位木

村よう子(阿見) 以上の成績でし

た。

十月二十日(土)、講師に明間

先生を迎えて、射術の個人指導を

していただきました。とくに歩行

中の方向変換と、持的と一つのの

礼射の練習をきびしく行ないまし

た。

二月九日(土)新春射会を参加

者七十三名で行いました。例年と

違つて全員で昼食をとり、大会が

盛り上がりました。

射詰賞 小武内弘子(神栖)

競射 一位小室セイ子(石岡)、

二位根本利江(東海村)、三位鹿

野幸子(日立)、四位白土俊子(ひ

たちなか)、五位高羽京子(水戸A)、

六位萩野谷綾子(水戸A)、七位

金子久美子(日立)、八位天冨子(笠

間)、九位飯田悦子(土浦)、十位

青山すみ子(水戸B)、余興的、

金的稲石京子(土浦)、銀的市毛

文絵(笠間)、お正月的、一位飯

田悦子(土浦)、二位大内和子(土

浦)、三位根本利江(東海村)、四

位生井弘子(下館)、五位鈴木裕

美(ひたちなか)、六位尾崎芳子(水

戸B)、七位柴沼睦子(笠間)、八

位福地貴代美(土浦)、九位宮下

文子(ひたちなか)、十位小武内

弘子(神栖)

一年間の流れを、ざっと書いて

見ましたが今年は錬士の称号を六

名もいただいた事は、夏の暑い日、

冬のしみる様な風の中を、各先生

方の熱意ある御指導の賜物と深く

感謝しております。これからもよ

ろしくお願い申しあげます。

地区だより

県北地区

「山吹の弓」新始動

初心者弓道教室

太田竹弓会 久本宣子

弓を友に十五年、弓道との出逢

いは、市広報案内「初心者弓道教

室」生徒募集が目にとまり、すぐ

さま申し込みの電話をしたのがき

っかけです。弓道に憧れがあった

わけでもなく、何故か惹かれるも

のがあったのだらうと思います。

教室では挫折しそうになり、弓に

対する単純な思い込みが覆され、

何とか修了日まで頑張ろうとの思

いだけで精一杯でした。そんな折

オイゲン・ヘリゲル著「弓と禅」

に出あったのです。子育て中の一

時期、中断しましたが、弓の事は

常に頭から離れずいつかまた再開

する事ばかり考えていました。

弓を本格的に再開してから四段

の大きな壁にぶつかり、そのお陰

で勉強した事は今も役立っていま

す。何故、どうして、の難題がな

かなか解けず苦労しました。不合

格になるたびに、次のステップへ

の階段も一緒に登っているつもり

で努力が実る事を信じ本当に頑張

ったと思つています。「熱意は幸

運を呼ぶ強力な武器」といいます

が本当だと思えます。

現在五段ですが、五段はスター

ト地点です。講習会へ参加し技術

の向上を目指して一生懸命努力し

ています。相変わらぬ中はまだ

まだ遠い先のようにですが、常に基

本に返り、その段なりの八節がで

きるようにと毎日道場へ通つてい

ます。

常陸太田市の高校生の弓道部活

動は活発です。又、年二回市の山

吹運動公園内弓道場に於いて大会

が開催されています。四月二十九

日の真弓賞大会、十月の体育の日

の市民弓道大会があり、一般と高

校生の交流の場になり相互に切磋

琢磨しています。

常陸太田市には五人立ちの立派

な道場があり恵まれた環境にあり

ながら一般の人の弓道人口が少な

く残念に思っていました。そこで

二年前に取得したスポーツ指導員

の資格を活かしそうと思ひ、自ら

はとの思いです。そこで市の広報

に「女性向け弓道教室」開講の募

集をお願いしたところ、すぐに応

募があり定員に達しました。現在

七名が教室に通つています。指導

するといふより、弓への入門をお

手伝いするといふ気持ちで望んで

います。弓を修練する良さを知れ

ば自ずと研究し修練の苦勞を楽し

みに変え、奥の深い弓に親しんで

くれるのではないかと思います。

教室を開講し尚一層の自分の勉

強にもなり開講して良かったと思

つています。機会がなく出来なか

つたと言ふ人もあり、これからは

これを機に少しずつでも太田に弓

道を愛してくれる人が増える事を

期待したいと思ひます。

日立地区

日立市支部 五来 勉

ここちよい弦音が久慈弓道場に

響きます。日立市の南部にあるこ

の道場は平成3年、慈弓会(現日

立市支部)の故五来清会長が発起

人となり地区の弓道人と有志の方々

の協力により地域振興と社会体育

の発展のために日立市唯一の弓道

場として設置されました。

現在、日立市支部、日立中央支

部、日立みなみ支部、鳴和支部の

4支部(90余名の会員)が道場の



日程に従って利用し、各支部は射技研修会、月例射会、弓道教室など新人の育成、または、各自がいろいろな大会に参加して優勝をはじめ多くの入賞者を輩出しています。将来は、各支部との交流を図り一層弓道の射技向上と親睦に努めたいと思います。

ここで、慈弓会(現日立市支部)の創立当時の苦勞と活動内容について紹介いたします。昭和14年3月に設立し、来年は創立70周年を迎えます。慈弓会は、故五来清会長が中心となり久慈町の有志の方

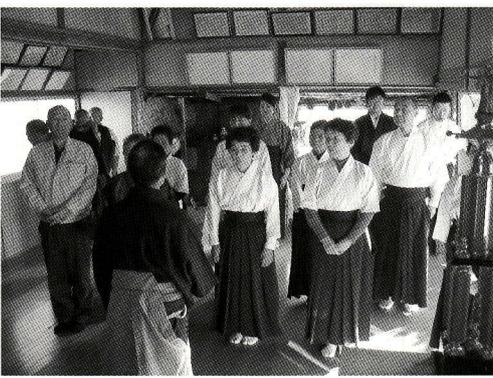
が老後の楽しみと健康のために設立されました。始めは、近所の空き地を借用し、塚のみの青空道場を開き、急な雨が降ってきた時は塚が崩れないように急いでムシロをかける始末でした。弓道は未熟のために練習は思うようにはいかず、しかし、幸いにも稲田の中野慶吉先生を水戸の市毛さんから紹介され、勇躍、先生の道場に合宿し、懇切に又、厳しくご指導を戴き射法射技と至誠、礼節の精神を学び将来の弓道人としての心構えを培うことが出来ました。(故五来会長後日談より)

やがて現在の故五来会長の屋敷内に五来弓道場が設置され、現在46名の会員が連日利用し、各自の練習時間帯にあわせて、午前の部、

午後の部、夜間の部に分かれていて、夜間の部は仕事をもつ方が主で午後10時くらいまで熱心に励んでいます。

会員の日頃の練習成果と反省の機会を持つうえで、毎月、定例月例射会(第397回)を行い前回の射詰優勝者による矢渡しと一手座射と4矢5回の立射で射詰、競射、総合の賞を目指して射会を行なっております。今日の射会の反省会という名目で懇親会もにぎやかに催しています。

弓道の仲間を増やし、弓道の楽しさを体験するために、「日立市報」による公募にて弓道教室は初心者対象で週2回の6ヵ月間を開催し、初段を取得するまで指導しています。平成3年より、第1期生(第13期生まで)136名の卒業



生を送り現在、錬士をはじめ各有一段者は、それぞれ各地で活躍しています。特に外国の方、アメリカ人1名、オーストラリア人1名も入会し、熱心な研修には感心しました。帰国し弓道を続け、現在も活躍していることを聞いています。国際交流に少しも役に立っているものと思います。日立市支部では今後も弓道の普及と会員増に継続していくつもりです。

日立市では市民総ぐるみ健康づくり運動「ひたち元気アップ賞」に日立市支部の「弓道教室」が優秀団体として表彰され今後の活動に期待されています。

故五来会長寄贈の「会長杯弓道大会」(5月4日)、「慈弓会選手権大会」(12月24日)を実施し会員相互の射技向上と親睦を深めています。

又会員の研修として講師を招き、体配、射技、審査の心得などを実技と講義を通して学習し、自己の射を反省し以後の練習に積極的に生かすように努めています。

冬の厳しい寒さの中での「寒稽古」うだるような夏の「土用稽古」など、各々17日間を弛まず、自己修練に励む、その努力に皆勤賞を表彰し、定例の月例射会において全員で称揚しています。

前記の活動は、いずれの支部で

も実施され、特に新しいものでもありません。私たちが恐れるのは、自分自身を含め、知らず知らず思考や行動が惰性で動き、マンネリ化していないかという事です。年齢や経験などの差が障害になることもありませんが、共に長所を認め、常時、お互いに積極的に情報を得る謙虚な姿勢が大切になってきます。ともすれば、機能中心に陥りやすい時、再び故五来会長の「至誠と礼節」の教訓を再認識し、全員で日立市支部を大きく発展させていきたいと思えます。

水戸地区

みと葵支部長 介川 達

一、組織の歴史と経緯
 県弓道連盟は昭和二十二年五月一日に発足し、昭和三十三年五月十日に再建された。

連盟の規約は昭和三十八年三月七日に施行され、地区編成は、1 県北、2 日立、3 水戸、4 石岡、5 鹿行、6 土浦、7 県西、8 県南の八地区に、大学、高体連専門部、中体連専門部が加わり十一地区として、各地区の委員長が選出され地区選出理事として県組織の運営を担っている。水戸地区では現在、茨城町支部長の高橋義之氏が選出され委員長(理事)として県連盟

の役員を勤めている。
 水戸地区は1水戸市、2勝田市、3那珂湊市、4笠間市、5大洗町、6内原町、7友部町、8岩間町、9常北町、10茨城町、11常澄村、12桂村、13七会村、14御前山村で編成されていたが平成の大合併で、1水戸市、2ひたちなか市、3笠間市、4大洗町、5城里町、6茨城町となった。

二、活動について
 歴史的には、勝田市長杯五十射会昭和二十二年頃より、2笠間観桜射会、3大洗つつじ祭、4勝田市民大会、5大洗射流し射会等の記録がある。

現在は支部主催で地域に根付き広く参加者に呼びかけ活動しているものは次の三大会であろう。
 ①笠間菊祭り弓道大会、支部長の天冨子教士の頑張りでも多くの弓友が集まる。

②みなと近郊弓道大会、港町らしいユニークな企画のかつお釣り等、参加者に喜ばれ、!!かつお釣つてくつか!!等、楽しみにしている会員が多い。

③観梅弓道大会、広く県外からも参加者があり五百人規模となり一般、学生と二日に分けて実施することもある。
 水戸地区は県庁所在地であり県武道館があり県の行事を年間を通

して消化している。平日の利用は主に、水戸市のグループにより効率よく使われているが、県の施設のため月によっては諸行事が入り使えない時があるが、県庁に四人立の弓道場があり、県民に開放され利用できるのが大変助かっている。また、柴田猛範士の存心館弓道場は県連合会員はもとより広く県外からも先生の指導を求めて多くの友が集まる。水戸地区の大切な練成道場としての役割を果たしている。

三、地区としてこれからの展望
水戸地区として、これから考えてゆかなければならない課題は、市道場の建設であろう。大会、審査等で全国の弓友が来水しても県武道館以外に会場のない不都合を何度も味わっている。これから地区を支える若い会員諸兄の双肩に掛かる空白を作れない大きな課題であろう。

四、弓道精神とは
最近読んだ中国の本の中に美味な魚についての記事が出ていた。老魚は年老いて来ると目に暮が出て来て餌が食べられなくなり、子の魚が親魚の為に餌を運ぶと云う。地区には関口宇一郎教士と曲山伊之吉教士が居て、武道館での準備や陰の仕事に見えないところで汗を流している。大会等が支障なく

石岡地区

小川太鼓が武道館に鳴響く

石岡支部 稲葉健次郎

運営されるよう気を配っている。まさに地区の宝だ。親魚に餌を運ぶ子魚のように、私達も弓道精神でこの大切な人材を守り、接してゆかなければならないであろう。礼に始まり礼に終る、日本の伝統武道、弓道で更に心と体を磨いてゆきたいものである。

平成十九年「第二十回全国健康福祉いばらき大会 ねんりんピクニック茨城2007弓道交流大会」は茨弓連の主管のもと水戸市主催で濟々と実施され成功裏に幕を閉じた。十一月十日の開会式における歓迎アトラクションにおいて我が弓友、大貫春恵代表の率いる小川太鼓が全国からのねんりんピクニック参加者四五〇名の前でみごとに演奏されました。(写真)

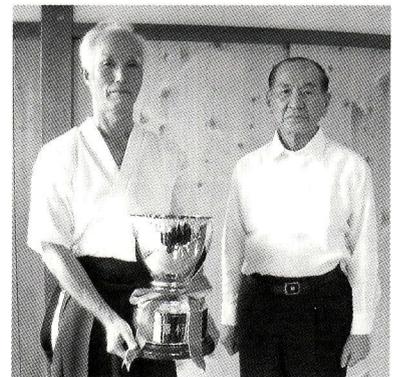
小川太鼓は結成十年、西に筑波山、東に百里ヶ原、田園風景豊かな町、旧小川町に生涯学習を基盤として発祥。清々しい空気を胸一杯に吸い込み、優雅で感動を与えたる太鼓を目指し、ボランティア活動を中心に日々精進している団体である。

会員は三歳児から三代まで十



五名、はりきって演奏しました。演奏曲目は自然界の四季を表現した「紅蓮」と、一人で三台の太鼓を叩きながら心は一つの「ともえ」でした。この響きは、参加者の胸の内にそれぞれの故郷へ運ばれたことでしょう。

小川支部では八月二十二日、樹齢五百年のケヤキで有名な下馬場にある鹿島神社の千二百年祭において奉納射礼を実施しました。戦前までは長い参道で流鏝馬が行なわれていたという古老のお話から復活されたものです。境内には神馬のための馬小屋が残っています。平成十九年度は茨弓連にとって飛躍の年でありましたが、石岡支部においても弓道修練を志す者に



とつて至極の教士に仙台で二名同時に昇格、東京で七段に一名拝受を受けました。また、初心者弓道教室からの弓友にも多くの段位を頂き、会員一同、更なる今後の精進を誓っているところです。

また、八月には芹澤前石岡弓道会会長から寄贈された「芹澤杯」のもと、恒例の五十射会が開催され、初代の優勝は平成十六年度弓道教室出身の明正会会員である中村明人三段が、五十射四十二中で

みごと初回の栄冠を獲得しました。(写真) 美野里支部においても二十年度の目標は大会等への積極的参加と、各自のレベルアップのための審査への挑戦をテーマに活動していく所存です。

鹿行地区

玉造支部 塙 幸明

当支部は、行方市合併後行方市

麻生支部と玉造支部となり私たちは玉造部として、活躍拠点行方市玉造乙の玉造公民館敷地内にある弓道場です。

会員登録者12名(男子10名女子2名)で活動しています。現在の活動状況は毎週火曜日、金曜日を練習日として都合のつく人のみ行っております。

公民館敷地内に道場があるので、公民館祭や公民館弓道教室に協力しています。合併前に道場の修理をし、それなりの道場になりました。

以前は床はビニール張りでした。以前は床はビニール張りでした。シャッターも無く雨やほこりが吹き込んで清掃も大変でした、修理後練習の成果も上がり支部対抗等は連続して3位入賞と、また各種大会でも好成績をおさめるようになりました。

また平成19年後半になり錬士合格者が2名もでて、夢のようなことでした。一人は佐藤至學五段、支部としては2人目、もう一人目は高野敬光五段で支部としては3人目の合格者となりました。

佐藤さんは18年4月から瞳会に入会、毎週県武道館に通い、教士六段介川先生、錬士六段浜野先生に指導を受け日々努力して合格いたしました。両先生に感謝申し上げます。

また高野君は支部の若手として、県の国体強化候補選手として県武道館に通い諸先生の指導を受けました。管内の錬士六段白鳥先生の指導も受け合格いたしました。関係先生に感謝申し上げます。両名とも、今後弓道人としての活躍を期待しております。

20年新春を迎えた1月6日、支部で射初会を開き両名の錬士合格を祝いました。席上、藤川錬士五段も後継者が一度に2名も出来て大変喜んでいました。

土浦地区

弓道部部长 助川末廣

土浦市体育協会弓道部の活動状況について、平成19年7月13日の常陽新聞に掲載された記事を紹介いたします。

「元氣です。地域スポーツ」土浦市体育協会専門部紹介

江戸時代より土浦藩は武術が盛んであったが、弓術においても日置流と石堂竹林派の2流派が主として行われ、弓術を行う人も多かったようである。

戦前には4、5ヶ所の個人道場もあり、また弓師、矢師、弦師などもこの地に居を構えるようになった。戦後の武道活動の復活とともに弓道の活動も再開され、昭和

21年6月に土浦市体育協会が結成されるや、体協弓道部としてさらに活動が活発化していった。

昭和39年11月に亀城公園外堀に市営弓道場が仮設道場として建設され、その運営を市から委任されることとなったのを機に、弓道会を設立(同年12月)して県弓道連盟にも加入し、ここに本格的な組織活動が開始された。

その後、道場の老朽化により昭和59年4月に同所に新弓道場が完成し、これにより県弓連主催の昇段審査も行われるようになった。

この間、会員数は逐次増加し、平成元年3月に文京町に市立武道館が完成。その1階に新弓道場ができ、現在に至っている。

体協弓道部は、県弓道連盟の土浦支部と土浦亀城支部の2支部の人員により構成されており、現在の部員数は130人を超えている。定期的な射会と講習会、合同練習会等を通じ技能、競技力の向上を図るとともに、弓道教室を開催し、弓道人の底辺拡大に努めている。具体的な活動内容は、射初射会(1月)、納射会(12月)、土浦桜まつり弓道大会(4月)、夏季練成大会(8月)、弓道教室(6月)、講習会・合同練習会の実施など。また、県弓連の大会に入賞し、飯田悦子、平野三津雄、

来栖茂、助川末廣らを関東選抜選手権に派遣している。今後は、合同練習の内容を充実し、講習会的に発展させ技能の向上を図っていきたい。また、定期射会を通じ競技力の向上を図り、いかなる状況においても平常心で普段の力を発揮できるように努めたい。さらに、弓道教室の内容を充実し、できれば期間も長くとして、弓道人口の拡大に努めるとともに、経験者の掘り起こしに努め、後輩を育成していきたい。

弓道の理念である「射法、射技の研修」「礼に即した体配の修練」「射品、射格の向上」「人間完成の必要」を目指し、日々精進しております。

県西地区

日立化成支部 大関賢

日立化成支部は、筑西市(旧下館市)の北端に位置する、日立化成工業株の敷地内「五櫻館」で、関根村夫範士を師範とし活動を行っております。

五櫻館は、当時の三代目社長横山亮次先生が、「県西地区における弓道普及と文武両道の精神を養い明朗な社会人の育成に役立てたい」との思いを込め、平成三年三月に建設された、六人立ちが可



能な道場です。

活動は、同社と合同で実施している「観桜射会」や、日立グループ内「事業所対抗弓道大会」等を開催しています。特に「観桜射会」は、毎年桜が満開の頃に開催し、今年で十八回目を迎えます。地元の高校十六校約二百名が参加され、若さで活気溢れる射会です。

また普段の活動は、毎週土曜日の定期練習が中心ですが、それ以外にも道場は毎日無料で開放しております。道場は会社専用のものでなく、あくまで地元弓道愛好家の方々のためのものですので、御希望の方は御一報のうえ、お気軽に御利用ください。

県南地区

藤代支部 福永弘

藤代支部の母体である藤弓会(とうきゅうかい)の会員は現在四十二名おりまして、下は十二歳から上は八十歳まで幅広い年齢の方が正射を求め、日夜練習に励んでおります。この中で県登録をして藤代支部として活動している会員が二十六名おり、各種県行事や全国大会・審査などで活躍しております。会員の中には高校の部活等に加入しているものも入会しておりますので、一般会員はほとんど県登録をしております。

主な練習場所は、取手市にありますが藤代武道場(旧藤代町勤労者体育センター)といい、こちらのほうが馴染みの深い方のほうが多いのではないかと思います。であり、月曜日(月曜日が祭日の場合は火曜日)を除く、朝の八時から夜九時まで練習出来るという恵まれた環境にあります。ただ道場が狭いため、体配等の練習は取手支部のホームグラウンドである、取手グリーンスポーツセンターを年に何回かお借りして行うようにしております。

年間の活動内容といたしましては、大会や審査会への参加はいうに及ばず、支部での体配練習会や、取手市体育協会が主催するスポーツイベントへの参加、県南講習会への参加、県南大会のお手伝い、

取手支部・下館支部との交歓試合等、いろいろな行事に参加し、友好を深め、射術・体配を向上させるよう活動しております。

支部の大会成績のほうは、各支部員が個人として毎年何らかの大会で上位の成績を残しております。

残念ながら今年も支部対抗の団体戦では決勝一回戦で敗退したものの、過去には支部で優勝・準優勝を独占したこともありました。

以上で簡単ではございますが藤代支部の紹介をさせていただきます。

これから将来的に練習内容の充実・支部員数の更なる確保などクリアしていかねばいけない問題はいろいろありますが、久保田先生が作られたこの支部を、これかも更に発展させるよう頑張るって行きたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後に、私事でございますが、就職と共に茨城県に越して参り、初めのうちは近くに知り合いは誰もいなく、孤立しておりましたが、弓道を知り、弓を通じていろいろな方に知り合う事ができ、皆様の暖かい力添えを頂き、今まで弓を引いて来られた事に感謝しつつ、筆を擱かせて頂きます。

指導部

部長 庄司 幸夫

会員の皆様におかれましては、日々の稽古にご精進のことと拝察いたします。

指導部主催の講習会が多くの参加を頂き滞りなく終了できましたこと、ご指導いただいた講師の諸先生をはじめ、受講者各位のご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

昨年度の講習会は「受講者各位のワンランクアップ」を目標に掲げ開催して参りました。成果として、連合・中央審査での合格者は、

先ず、中堅では五段17名、錬士14名と頑張り、称号者も大いなる奮起により、六段8名、狭き門の七段には2年ぶりに宮崎、山村両先生が合格、更に関門の教士に5名と多くの方々の昇段・昇格者が誕生し実りある一年であったと思えます。

合格者の皆様心よりお祝い申し上げます。更なるご精進とご活躍を記念いたしております。

さて、次年度の講習会は、昨年度に引き続き概略以下の内容で進めて参りますが、昨年度講習会で講師の先生より注意を受けた主だった内容を記します。

講習会での「受講者心得」として

真摯に受け止め、お互い注意し受講しましょう。

①弓道教本(第1巻)、副読本、メモ、筆記用具等は必ず持参すること

②受付時に立順番号のゼッケンを受け取り袴の前面右腰に付け、集合時の体形は立順に従い右から左に5名とし、点呼の後相互に着装点検を行う

③講習中はみだりに巻藁稽古などすることなく、手隙の場合は適切な場所で見取稽古に意を注ぐこと。特に道場内での腰板等による背もたれは慎むこと

④閉会式終了まで用具類の始末等はしないこと

講習会の内容は昨年同様の三段・四段講習会、五段講習会、称号者講習会の3区分、各2回を計画します。(他に支部指導者講習会、学校指導者講習会を各1回)

以前の講習会で講師の先生から山登りの例として、最初の山(目標)に到達したならば麓に立ち返り、射法・射技の基本を再点検し、次の新たな山(目標)を目指して自己研鑽することが大事であるとの講話を頂きました。高段位になればなるほど次の山は高く厳しい道のりとなります。目標に向けて事前に各支部で修練頂き、講習会はその確認の場として望んで頂ければ幸いです。

指導部主催の講習会が会員皆様の手助けになればというのと工夫していきたいと思います。弓を始め続けた会員の皆様、気概を持って歩み続けようではありませんか。「継続は力なり」です。詳細日程・講習内容・申し込み等については、各支部長宛に通知致しましたので、より多くのご参加をお持ち申し上げます。

平成19年度、県内審査の予定無事終了することが出来ました。

審査委員の先生方、審査部役員の方々のご協力有難うございました。紙面をかりお礼を申しあげます。

さて今年も中高校生の皆さんにはたくさん受審をして頂き、合格者は昨年度とほぼ同じであったが参段合格は昨年の倍19名と高校生3年生が頑張りました。進学、就職されても弓道の精神を忘れることなく仲間を誘い弓道を続けていただきたいものです。今年の最後の審査会で県連会長柴田猛先生の挨拶

審査部

部長 明間 勲

審査部

平成19年度 審査合格表

平成20年1月8日 審査部 明間勲

種別	無指定	初段	弐段	参段	四段	五段	計
5/6 一般	受審者		22	22	42	26	112
	合格		22	22	16	8	68
	%		100	100	38	31	61
5/13 中高	受審者		342	97	13		452
	合格	2級 28	149	94	2		245
	%	1級 92	44	97	15		54
7/15 中高	受審者		248	62	36		346
	合格	2級 34	166	52	18		236
	%	1級 42	67	84	50		68
9/2 中高	受審者		108	13	3		124
	合格	2級 4	19	12	1		32
	%	1級 76	18	92	33		52
9/9 一般	受審者		19	9	39	21	88
	合格		19	9	18	13	59
	%		100	100	46	62	67
10/8 連合	受審者					133	133
	合格					25	25
	%					19	19
11/23 中高	受審者	390					390
	合格	2級 35	16				16
	%	1級 339	4				4
12/9 無指定一般	受審者		28	15	42	32	117
	合格		26	15	16	15	72
	%	1級 2	93	100	38	47	63
12/16 中高初段以上	受審者		94	133	24		251
	合格		94	133	8		235
	%		100	100	33		94

専門部だより

擲のなかで高校卒業後進学就職されても弓を忘れず、OB仲間でもらいたいと挨拶されています。

一般審査をみてみますと参段、四段の受審者が多く無指定が少ないのが残念です。各支部で高段者が多くなり初心者指導が十分でないのが残念です。

競技部は、今年で三年目ですが引き続き、施設部・強化部のご協力をお願いし県の大会の日に遠くの練習を行えるよう準備(雨の日は中止)し、皆様のご期待に添えるようにしたいと考えております。遠的は、弓道の基本ですので楽しく励んで下さい。また遠的矢でなくとも近的矢でも充分ですので挑戦してください。

◎県外審査申込み期限の変更の件

1. 審査の種類

- ① 定期中央審査
- ② 臨時中央審査
- ③ 連合審査
- ④ 学生特別審査

- 2. 申込み締切り期限
- ① 審査実施日の75日前まで(必着)弓道連盟会長 柴田猛宅へ
- ② 同期日まで審査料も茨弓連審査部口座へ振込むこと。
- ③ 級・段審査申込に必ず記入すること。
- ※支部長がとりまとめて提出すること。

競技部

部長 須田 勝

「やってみよう！」
会員の皆様には、益々ご健勝で

稽古に励まれている事とお慶び申し上げます。

今年も柴田会長のご指導の下、競技の充実をはかることを願い、森・大貫両副部長に相談しながら、微力な私ですが精一杯尽くす所存でございます。

強化部では県内外の各種大会に賞すべく強化と国体に於いて上位入賞を果たすための選手強化を平成18年度、19年度と、各支部長の協力を得て各支部の将来有望な選手を推薦していただき強化を実施し、将来有望な選手を育成しております。

昨年一年間の事業の中で、多々ご意見を頂いた事々々を来年に向けて活かしたいと考えております。

今年も県の大会は、十回計画しております。日頃の稽古の発表の場として又、先生方、先輩方の良い射を見るよい機会でもあります。また、近年低段位の方の出場が少なく寂しく感じております。昔から「百矢場踏め」と言われておりますように、いくつもの道場へ出向き、また、大勢の中で弓を引くことは、人生の良い勉強の場ともなるはずす。

大勢の会員の皆様のご参加を心から歓迎し、有意義な大会にして

強化部

部長 川瀬 政人

下さることをお願いし挨拶いたします。

強化部では県内外の各種大会に賞すべく強化と国体に於いて上位入賞を果たすための選手強化を平成18年度、19年度と、各支部長の協力を得て各支部の将来有望な選手を推薦していただき強化を実施し、将来有望な選手を育成しております。

昨年一年間の事業の中で、多々ご意見を頂いた事々々を来年に向けて活かしたいと考えております。

今年も県の大会は、十回計画しております。日頃の稽古の発表の場として又、先生方、先輩方の良い射を見るよい機会でもあります。また、近年低段位の方の出場が少なく寂しく感じております。昔から「百矢場踏め」と言われておりますように、いくつもの道場へ出向き、また、大勢の中で弓を引くことは、人生の良い勉強の場ともなるはずす。

大勢の会員の皆様のご参加を心から歓迎し、有意義な大会にして



にあたっては昨年同様、県弓連会員各位の暖かいご理解とご協力をお願いいたします。

広報部

編集員 星 喜進

〔弓道いばらき〕第30号発刊の時期がきました。毎回のことながら原稿依頼をされた方々が心よくお引き受け下さり誠にありがたう思っております。広報部の主要な業務は皆様もご承知のことと思いますが、県連及び各地区で実施された大会や行事の結果について
①全弓連発刊の「弓道」誌への原稿の投稿
②ホームページへの掲載
③新聞社等への通報
④機関紙「弓道いばらき」の発刊などであります。

●全弓連の「弓道」誌への原稿の投稿について
平成十八年九月号までの「地区だより」は、十七〜二十二ページを割り当てられ、投稿原稿はほとんど掲載されましたが、編集の方針が変わり、十八年十月号から、大会記録のみを掲載することとなり、各種大会の状況などを細かく伝える事が出来なくなりました。そして、この号から「地区だより」のページ数が従来の約二十ペ

皆様へ感謝申し上げます。
一方、本年度からは成年男子も国体ストリート参加と選任監督制度が廃止になり、選手が監督兼務として関東ブロック大会で勝たなければ国体出場が出来ない制度となり、更に厳しい戦いになります。成年男女、少年男女の4種別が揃って国体に出場し、更に上位入賞を目指し強化を実施したいと思っております。強化部の武道館弓道場使用

ージから七ページに激減してきました。従って投稿してもカットされる件数が多くなってまいりました。また、大きな大会である県連の大会結果がカットされ、地方の大会結果が掲載されるなど、選択の基準も明確ではありません。「弓道」誌全体の総ページ数もかつては九十〜百ページ程度でしたが十八年九月号から七十二ページ程度となったのが「地区だより」ページの減少の原因であると思います。投稿数と掲載数の実績について申しますと、十八年十月より十九年九月まで一年間で二十五件投稿しましたが十九年一月号から十二月号まで一年間の掲載数は十二件で約半分しか掲載されませんでした。担当者としては毎月掲載されるように願って原稿を送り続けておりますが、全く掲載されない月が1・2・8・11月と4ヶ月もあり、誠に残念に思っております。今後とも毎月掲載を目標に編集部にもさらにお願ひし、努力してまいりますので、ご了承下さいますようお願い致します。

●ホームページへのアクセス数も現在は6万5千件と多くにのぼり好評を得ております。これも今後益々充実すべく努力してまいります。

●「弓道いばらき」については内容の検討を行ない紙面の充実にはさらに努めてまいりたいと思っております。

●今回の号で特筆されるのは、11月10〜13日に行なわれた「全国健康福祉祭いばらき大会（ねんりんピック茨城2007）」でありました。各都道府県及び政令指定都市から選抜された64チームの参加者が集い、盛大に開催されました。私も役員の一員として大会を間近に見学させていただきましたが、社会の第一線から退いた方々でも、目的をもって日々研鑽されている人達のすばらしい迫力と真剣さに接し、本当に自分の参考とする事を多く得る事ができました。高齢になつて、毎日の生活であまり緊張する機会もない人達が、しばらく振りか（全国レベルの大会のせいなのか）控えてため息をついたり、黙想したり、また構えた矢先がブルブルと震えるほど緊張したりしているさまを目のあたりにしました。毎日の生活で目的も無く、何をしてもいかかわらず暮らしている老人を間近かに見ている者として、目的を持って活動している人達が何と生き生きとして元気で生活している事か、またこの、時々たま経験する緊張感が何とその人の人生を豊かにするものかを感じることができました。

県外大会

*第45回関東教職員弓道大会
2007・7・1

男子の部
個人2位 後藤裕一 土浦工業

*第58回日本選手権関東地域代表選考大会
2007・7・22

通過者 萩野谷綾子
海老根芳江

*第38回全日本教職員弓道選手権大会
2007・8・9〜10

男子個人の部
準優勝 後藤裕一 土浦工業

*第48回関東地域弓道選抜選手権大会
2007・9・9

称号者の部
射技優秀賞 宮崎康美 鳴和

*第40回全日本女子弓道選手権大会
2007・9・23〜25

優秀賞 萩野谷綾子
海老根芳江

*第62回国民体育大会弓道競技会
2007・10・5〜8

成年男子 近の 四位

(監督) 川瀬政人
石田昌嗣 小沼勝則 池田秀臣
少年女子 遠的 八位
(監督) 本橋智志
米島愛 保田友美 中根奈津美

*第58回全日本弓道遠的選手権大会
2007・10・26〜28

女子の部
二位 石井和子 湊
四位 野田未紀 牛久

*第20回ねんりんピック茨城2007弓道交流大会
2007・11・10〜12

三位 茨城県Aチーム
堀江 栄(監督)
郡司武満 福田長作
鈴木正太郎 渡辺専二
綱川久子

*第8回 全国弓道遠的大会(新成人記念大会)
2008・1・12

成年女子の部
二位 大高 綾 桐弓会
四位 仲村美香 桐弓会

県連主催大会
2007・4・22

春季大会
2007・4・22

団体の部

団体

一位 土浦亀城
山本沙恵 野田君江 武野浩子
二位 友部
園部俊雄 白井秀則 門井了
三位 勝田
檜山正富 清水博 八木秀人

個人男子の部
一位 清水 博 勝田
二位 嶋田和希 桐弓会
三位 今井紀一 霞ヶ浦

個人女子の部
一位 神原文子 勝田
二位 萩野淑江 神栖
三位 川崎百合子 東海

称号受有者の部
一位 石井和子 湊
二位 米山良美 下館
三位 池田秀臣 桐弓会

優秀賞 団体の部
第一射場 水戸桜川
境貴洋 白井一也 小出則行
第二射場 藤代

優秀賞 男子個人の部
第一射場 境 貴洋 水戸桜川
第二射場 吉田忠晃 竜ヶ崎

優秀賞 女子個人の部
第一射場 垣本ゆかり 取手
第二射場 萩野淑江 神栖
第二射場 山田浩子 藤代
第二射場 大高 綾 桐弓会

第一射場 大高 綾 桐弓会

第一射場 大高 綾 桐弓会

第一射場 大高 綾 桐弓会

第一射場 大高 綾 桐弓会

*選手権大会「称号者の部」

- 2007・5・20
- 一位 宮崎康美 鳴和
- 二位 張替謙一 北総
- 三位 圓城寺賢一 水戸桜川
- 最高得点 山村 晋 石岡

*選手権大会「有段者の部」

- 2007・6・3
- 三段以下の部
- 一位 石田昌嗣 神栖
- 二位 福井光仁 日立中央
- 三位 熊谷俊秀 日製日立
- 四段・五段の部
- 一位 菊地俊和 藤代
- 二位 来栖 茂 土浦
- 三位 小林幹夫 水戸桜川

優秀賞

- 初段以下 豊崎大輝 土浦
- 二段 平根伸彦 原研機構
- 三段 石田昌嗣 神栖
- 四段 尾吹将大 茨城
- 五段 高野敬光 玉造

*県民総体(兼)国体選手選考会

2007・6・17

▼成年男子の部

- 三位以下の部
- 一位 石田昌嗣 神栖
- 二位 青柳 優 桐弓会
- 三位 永塚 博 藤代

・四段以上の部

- 一位 越川道也 波崎

- 二位 揚場 満 土浦
- 三位 海老原和典 土浦

▼成年女子の部

- 三段以下の部
- 一位 中村和子 笠間
- 二位 永野希美 高萩
- 三位 會沢英美子 美野里
- 四段以上の部
- 一位 黒澤智子 三菱化学
- 二位 野田未紀 牛久
- 三位 高羽京子 水戸

▼称号受有者の部

- 一位 郡司武満 茨城
- 二位 小泉民男 原研機構
- 三位 萩沼信子 殿山弓道

*遠的大会(兼)全日本遠的選手権予選

2007・7・8

▼男子四段以下の部

- 一位 菊地俊和 藤代
- 二位 海老原和典 土浦
- 三位 小幡貴司 土浦

▼男子五段以上の部

- 一位 小沼勝則 波崎
- 二位 小出則行 水戸桜川
- 三位 境 貴洋 水戸桜川

▼女子四段以下の部

- 一位 高羽京子 水戸
- 二位 大高 綾 桐弓会
- 三位 小口恵美 石岡

▼女子五段以上の部

- 一位 野田未紀 牛久

- 二位 石井和子 湊
- 三位 黒澤智子 三菱化学

*青年大会「青年協」

2007・8・19

- 一位 龍ヶ崎市 奥山郁夫(監督)
- 小林美貴代、和田宏、吉田忠晃

- 二位 筑西市 庄司幸夫(監督)
- 岩下智明、廣瀬梨重子、稲見真人

- 三位 土浦市 星喜進(監督)
- 植田徹也、中座由行、海老原和典

*第31回中野杯記念弓道大会

2007・9・23

▼一般男子の部

- 一位 金沢長生 湊
- 二位 安齋壽雄 東海
- 三位 辻 尚宏 土浦亀城

▼一般女子の部

- 一位 中野治子 下館
- 二位 羽田優子 取手
- 三位 安部容子 東海

▼称号受有者の部

- 一位 後藤裕一 土浦亀城
- 二位 竹之内正宏 日製日立
- 三位 石井 誠 湊

*段位別大会

2007・10・21

▼二段以下の部

- 一位 鈴木慎也 高萩
- 二位 水野希美 高萩
- 三位 中村丈夫 水戸
- 三段の部
- 一位 船越 忠 神栖
- 二位 永塚 博 藤代
- 三位 大高 稜 桐弓会
- 四段の部
- 一位 尾吹将大 茨城
- 二位 今井紀一 霞ヶ浦
- 三位 山城芳美 牛久
- 五段の部
- 一位 鈴木正太郎 下館
- 二位 門井 了 友部
- 三位 田口敏朗 東海
- 称号受有者の部
- 一位 山村 晋 石岡
- 二位 荻原裕一 美野里
- 三位 廣原洋介 霞ヶ浦
- 優秀賞
- 二段以下の部 斎藤利章 神栖
- 二段以下の部 床嶋純孝 東海
- 三段の部 松田裕子 東海
- 三段の部 埜田勝利 牛久
- 四段の部 今井紀一 霞ヶ浦
- 五段の部 山城 勝 牛久

- 三位 中畑勇真 城西中

▼女子個人

- 一位 富山 愛 城ノ内中
- 二位 平山恵理 稲田中
- 三位 廣瀬真衣 清真学園中

*支部對抗戦

2007・12・23

- 一位 鹿嶋 久保里美 佐藤三男
- 二位 小堀富男
- 桐弓会
- 大高綾 芦田侑果
- 池田秀臣 勝田A
- 勝田B
- 清水正己 渡邊専二
- 萩谷好浩
- 八木秀人 檜山正富
- 根本鈴子

*新春射会

2008・1・13

▼三段以下の部

- 荒井康雄 大子
- 四・五段の部
- 菊地俊和 藤代

▼称号受有者の部

- 庄司幸夫 下館
- 総合優勝 菊地俊和 藤代

▼団体戦

- 優勝 白組 的中率 39・85%

準優勝 赤組 的中率 30.43%

★射詰賞

田口敏朗 東海村

*全日本勤労者弓道選手権大会
県予選会

2008.3.16

▼団体の部

- 一位 三菱化学A
- 寺本貞光 黒澤智子 川瀬政人
- 二位 日本ナショナル製罐
- 大高 綾 仲村美香 池田秀臣

▼個人の部

- 一位 長木完仁 三菱化学B
- 二位 池田秀臣
- 日本ナショナル製罐
- 三位 黒澤智子 三菱化学A

その他県内大会

*第36回村松山弓道大会

2007.4.1

▼小学生の部

- 一位 森 彩香 村松小
- 二位 中言早希 石神小
- 三位 澤島 愛 白方小

▼中学生の部

- 一位 佐藤有紗 東海中
- 二位 大原慶子 竹来中
- 三位 小川晃平 東海南中

▼高校、一般の部

- 一位 米島 愛 佐和高
- 二位 栗原千明 佐和高
- 三位 西野文子 湊

*土浦桜まつり弓道大会

2007.3.31(4).1

▼中学の部

- 一位 飯野也美 朝日中
- 二位 芹澤 侑 竹来中
- 三位 大崎 愛 竹来中

▼高校男子の部

- 一位 阿部大氣 土浦日大B
- 二位 石本裕一郎 石岡商B
- 三位 遠藤翔平 石岡商A

▼高校女子の部

- 一位 栗原もも 江戸川学園A
- 二位 千葉智美 取手一A
- 三位 小松光恵 土浦二A

▼一般の部

- 一位 飯泉 清 下館F
- 二位 境 貴洋 水戸桜川C
- 三位 大貫富士男 小川

▼一般射詰賞

- 境 貴洋 水戸桜川C

▼一般団体優勝

- 水戸 小島敏和 小島幸子

▼高校男子団体優勝

- 大貫富士男

▼高校女子団体優勝

- 土浦二A 須藤達哉 石川泰弘
- 渡邊俊人

▼高校女子団体優勝

- 石岡商B 細井美穂 関真奈美
- 中根奈津美

*第17回山ざくら弓道大会

2007.4.8

▼射詰賞

渋谷輝男 牛久

▼競射賞

- 一位 名久井理 土浦工
- 二位 瀬古沢清孝 土浦工
- 三位 今村幸造 新治

▼金の

- 一位 諸橋 昭 波崎
- 二位 園部俊雄 友部
- 三位 田口敏明 東海

*ねりんピック予選

2007.4.20

- 優勝 鈴木正太郎 下館
- 二位 綱川久子 友部
- 三位 郡司武満 茨城町

*鹿島神宮弓道大会

2007.4.29

▼高校の部

- 射詰優勝 遠藤翔平 石岡商
- 射込優勝 遠藤翔平 石岡商
- 射込二位 保田友美 石岡商
- 射込三位 前田田花 藤代高
- 団体優勝 石岡商B 櫻村知世
- 遠藤翔平 井上雄貴

▼一般の部

- 射詰優勝 島山友史 つくば大
- 射込優勝 島山友史 つくば大
- 射込二位 吉田忠晃 龍ヶ崎

射込三位 伊藤憲二 茨城大

団体優勝 龍ヶ崎

桜井信一 関口孝久
吉田忠晃

*第28回神栖市弓道大会

2007.5.13

▼学生の部

- 射詰優勝 池田真弓 清心学園
- 射込優勝 佐藤瀬里奈 藤代
- 射込二位 須賀桂太 取手一
- 射込三位 加藤剛史 藤代
- 団体優勝 土浦工A

▼花射割

- 名久井理 高野将志
- 瀬古沢清孝
- 千葉智美 小林勇貴
- 菊地祐太

▼一般の部

- 射詰優勝 小堀富男 鹿嶋
- 射込優勝 山口勝男 佐原
- 射込二位 山倉 明 佐原
- 射込三位 来栖 茂 土浦
- 団体優勝 堀川正文 石田昌嗣
- 三菱化学神栖
- 黒澤智子
- 松崎稔昌 小幡貴司
- 幕内雄基

▼花射割

- 射詰の部
- 男子の部

*県教職員春季弓道大会

2007.5.19

▼男子の部

一位 白石直之 OB

二位 荻原裕一 OB

三位 星 喜進 OB

▼女子の部

- 一位 青柳とし子 OB
- 二位 大金喜代子 大成女子高
- 三位 大川都志子 那珂湊一高

*行方市麻生杯弓道大会

2007.5.27

▼高校の部

- 射詰 瀬古沢清孝 土浦工

▼射込

- 一位 名久井理 土浦工
- 二位 櫻村知世 石岡商
- 三位 石本裕一郎 石岡商

▼一般の部

- 射詰 植田徹也 土浦

▼射込

- 一位 郡司武満 茨城
- 二位 植田徹也 土浦
- 三位 廣原洋介 霞ヶ浦
- 射込 郡司武満 茨城
- 二位 植田徹也 土浦
- 三位 廣原洋介 霞ヶ浦

*第56回あやめ祭弓道大会

2007.6.10

▼高校の部

射詰の部

中体連大会

優勝 横尾知香 常総学院

・射込の部

一位 渡辺聡美 江戸崎総合

二位 横山侑幸 麻生高

三位 細田 岳 江戸崎総合

・団体優勝

麻生高A

横山侑幸 関野明久

荒原学

・花的賞

森本将成 常総学院

小森友里絵 潮来高

▼一般の部

・射詰の部

優勝 川瀬政人 神栖

・射込の部

一位 斉藤利章 神栖

二位 松田知子 土浦

三位 金子真之 旭

・団体優勝

神栖混成

斉藤利章 高野敬光

根本富士子

・花的賞

石田昌嗣 神栖

田辺美江 東庄

*第29回茨城県女子弓道大会

2007・09・29

・射形優秀者

高羽京子 水戸A1

▼団体 水戸A2

優勝

水戸A2

萩野谷綾子 川俣幸子

市毛道子

二位 茨城町

飯田純子 福田直子

廣水千加代

三位 水戸B

青山すみ子 横山幸子

塩津多恵子

三位 水戸A1

宮田はるみ 高羽京子

武田美代子

▼個人

優勝 村上美保 友部

二位 根本利江 東海

三位 飯田純子 茨城町

*茨城県教職員秋季弓道大会

2007・12・2

▼男子の部

一位 福永 弘 愛国学園

二位 唐澤 章 江戸崎総合高

三位 星 浩一 水戸二高

▼女子の部

一位 大金喜代子 大成女子高

二位 酒井有香 もみじ幼稚園

三位 青柳とし子 OB

*女子部新春射会

2008・2・9

・射詰賞

小武内弘子 神栖

・競射 一位 小室セイ子 石岡

二位 根本利江 東海村

三位 鹿野幸子 神栖

・余興的

・金的 稲石京子

・銀的 市毛文絵

・お正月的 一位 飯田悦子

二位 根本利江 東海村

三位 鹿野幸子 神栖

・余興的

・金的 稲石京子

・銀的 市毛文絵

・お正月的 一位 飯田悦子

二位 大内和子

三位 根本富士子

二位 尾崎将大 茨城町

一位 白石直之 水戸桜川

二位 小沼 豊 鉦田一OB

三位 鈴木博子 土浦亀城

一位 尾崎将大 茨城町

二位 白石直之 水戸桜川

三位 小沼 豊 鉦田一OB

一位 尾崎将大 茨城町

二位 白石直之 水戸桜川

三位 小沼 豊 鉦田一OB

一位 尾崎将大 茨城町

二位 白石直之 水戸桜川

三位 小沼 豊 鉦田一OB

一位 尾崎将大 茨城町

二位 白石直之 水戸桜川

三位 小沼 豊 鉦田一OB

一位 尾崎将大 茨城町

二位 白石直之 水戸桜川

三位 小沼 豊 鉦田一OB

一位 尾崎将大 茨城町

二位 白石直之 水戸桜川

三位 小沼 豊 鉦田一OB

一位 尾崎将大 茨城町

二位 白石直之 水戸桜川

三位 小沼 豊 鉦田一OB

一位 尾崎将大 茨城町

*茨城県中学校総合体育大会 弓道競技の部

2007・7・28

▼男子団体

一位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

二位 水戸二中

松本彰 永田将貴

廣瀬大成

三位 内原中

藤枝直人 寺門恭平

工藤拓磨

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 平根和樹 茨城中

三位 廣瀬大成 水戸二中

▼女子個人

一位 城ノ内中

小林美香 寺田未来

伊藤聖

二位 阿見中

木村澄香 鈴木沙季子

仲川絵梨

三位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

▼女子個人

一位 伊藤 聖 城ノ内中

二位 佐藤美和 稲田中

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 小谷直人 竹来中

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 東海中

三位 風見麻衣 龍ヶ崎愛宕中

二位 土浦一中

萩原慎之亮 石原樹里

加藤瑛典

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

二位 阿見中

木村澄香 仲川絵梨

鈴木沙季子

三位 竹来中

大原慶子 永沼あずみ

小見川さおり

龍ヶ崎愛宕中

風見麻依 杉山智美

松浦由依

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 小谷直人 竹来中

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

二位 阿見中

木村澄香 仲川絵梨

鈴木沙季子

*第31回中野杯優勝旗争奪 弓道大会(中学生の部)

一位 城ノ内中

関隆宏 屋敷正弥

助川諒

二位 土浦一中

萩原慎之亮 石原樹里

加藤瑛典

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

二位 阿見中

木村澄香 仲川絵梨

鈴木沙季子

三位 竹来中

大原慶子 永沼あずみ

小見川さおり

龍ヶ崎愛宕中

風見麻依 杉山智美

松浦由依

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 小谷直人 竹来中

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

▼男子個人

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 小谷直人 竹来中

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

二位 阿見中

木村澄香 仲川絵梨

鈴木沙季子

三位 竹来中

大原慶子 永沼あずみ

小見川さおり

龍ヶ崎愛宕中

風見麻依 杉山智美

松浦由依

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 小谷直人 竹来中

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

二位 阿見中

木村澄香 仲川絵梨

▼女子個人

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 小谷直人 竹来中

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

二位 阿見中

木村澄香 仲川絵梨

鈴木沙季子

三位 竹来中

大原慶子 永沼あずみ

小見川さおり

龍ヶ崎愛宕中

風見麻依 杉山智美

松浦由依

一位 澤島瑞樹 東海中

二位 小谷直人 竹来中

三位 東海中

川上新太郎 澤島瑞樹

河合直人

三位 茨城中

羽石直弥 宮崎哲志

平根和樹

一位 東海中

石井夏海 三次優花

飯島由香

二位 阿見中

木村澄香 仲川絵梨

三位 平岡拓也 竹来中
 ▼女子個人
 一位 後藤才佳 水戸二中
 二位 大原慶子 竹来中
 三位 飯野也美 朝日中

***第18回 関東中学生弓道大会**
 2007・8・11

▼男子団体
 第三位 水戸二中
 松本彰 永田将貴
 廣瀬大成

▼男子個人
 第七位 藤枝直人 内原中
 第八位 工藤拓磨 内原中

***茨城県新人大会**
 2007・11・2

▼男子個人
 一位 水戸二中
 廣瀬大成 永田将貴
 岡田孟

二位 東海中
 荻野修平 西川隼斗
 近藤雅之

三位 城ノ内中
 岡野陽平 屋敷正弥
 北澤大志

▼男子個人
 一位 近藤雅之 東海中
 二位 廣瀬大成 水戸二中
 三位 永田将貴 水戸二中

▼女子個人
 一位 清真学園

飯田朋子 駒崎三祐貴
 廣瀬真衣

二位 稲田中
 佐藤美和 林真理子
 平山恵理
 三位 内原中
 飯村真理奈 村沢はるか
 桑名優季

▼女子個人
 一位 佐藤美和 稲田中
 二位 廣瀬真衣 清真学園
 三位 富永亜衣 千波中

***第2回茨城県武道フェスティバル**
 2007・11・17

▼男子個人
 一位 荻野修平 東海中
 二位 篠田 淳 茨城中
 三位 中畑勇真 城西中

▼女子個人
 一位 富山 愛 城ノ内中
 二位 平山恵理 稲田中
 三位 廣瀬真衣 清真学園中

高体連大会

県外大会

***第51回関東大会(上尾)**
 2007・6・3

女子個人技能優秀
 仲村真由美 石岡商

***第52回高校総体(唐津)**
 2007・8・4~7

▼男子団体
 四位 石岡商

***第26回関東高等学校弓道個人選手権大会**
 2007・9・15~16

▼女子個人
 一位 保田友美 石岡商
 三位 関真奈美 石岡商
 六位 本多真佑美 石岡商

県内大会

***全国高等学校弓道大会茨城県予選会**

兼茨城県民総合体育大会
 兼国民体育大会茨城県大会
 兼茨城県高等学校総合体育大会
 (男子団体予選・個人決勝)
 2007・6・8

▼男子個人
 一位 境
 二位 石岡商
 三位 土浦二

▼男子個人
 一位 米川祐太郎 佐和
 二位 石川泰弘 土浦二
 三位 粟野一希 下妻一

***全国高等学校弓道大会茨城県予選会**

兼茨城県民総合体育大会
 兼国民体育大会茨城県大会
 兼茨城県高等学校総合体育大会
 (女子団体予選・個人決勝)
 2007・6・9

▼女子個人
 一位 石岡一
 二位 土浦二
 三位 石岡商

▼女子個人
 一位 沼野智恵 土浦二
 二位 中根奈津美 石岡商
 三位 池田真弓 清真学園

***全国高等学校弓道大会茨城県予選会**

兼茨城県民総合体育大会
 兼国民体育大会茨城県大会
 兼茨城県高等学校総合体育大会
 (男女団体決勝)
 2007・6・10

▼男子個人
 一位 石岡商
 二位 土浦二
 三位 土浦工

▼女子個人
 一位 水戸一
 二位 石岡商
 三位 藤代

***茨城県高等学校弓道個人選手権大会**
 兼関東高等学校弓道個人選手権大会
 茨城県予選会
 2007・8・17・18・22

総合の部入賞者

▼男子個人
 一位 山崎大輔 土浦三
 二位 名久井理 土浦工
 三位 阿部大氣 土浦日大

▼女子個人
 一位 中根奈津美 石岡商
 二位 宇野春菜 日立商
 三位 関真奈美 石岡商
 1年生の部入賞者
 (男子)
 一位 軍司紘希 緑岡高
 二位 吉川恵太 藤代高
 三位 石津直輝 清真高
 (女子)
 一位 渋谷久美子 江戸川
 二位 大屋 和 竜ヶ崎一
 三位 弥武優郁 清真

***茨城県高等学校弓道秋季大会**
 兼第31回中野優勝旗記念弓道大会
 2007・9・21

▼男子個人
 一位 石岡商
 二位 藤代
 三位 土浦日大

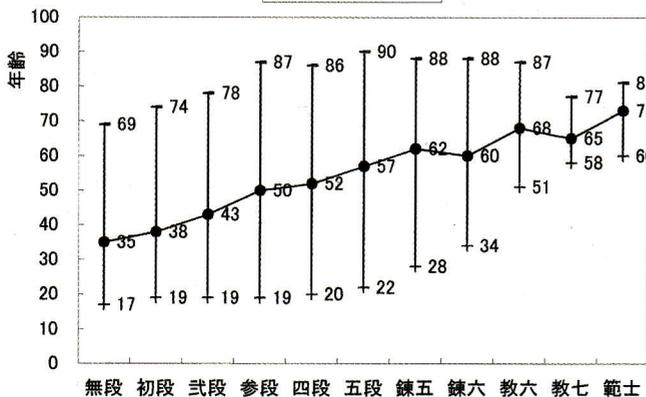
▼女子個人
 一位 土浦一
 二位 水海道一
 三位 水戸桜ノ牧

▼男子個人
 一位 井上雄貴 石岡商
 二位 山崎大輔 土浦三
 三位 内堀翔太 日立一

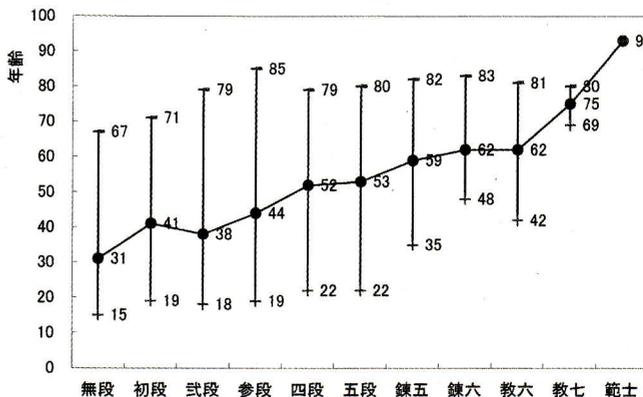
▼女子個人
 一位 中俣有希子 藤代
 二位 井上 萌 土浦一
 三位 奥澤美紅 土浦一

県連会員構成

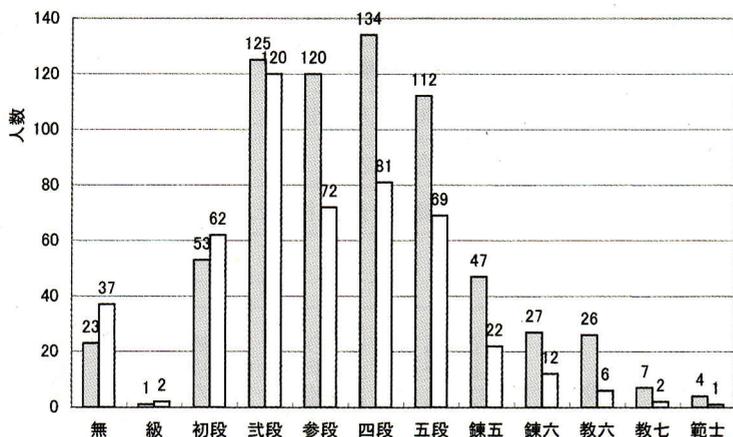
一般男子年齢構成



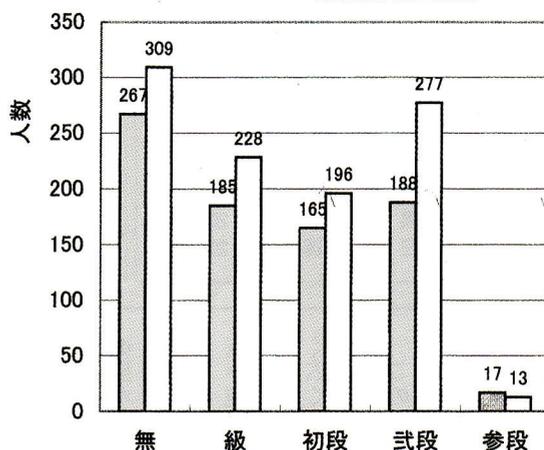
一般女子年齢構成



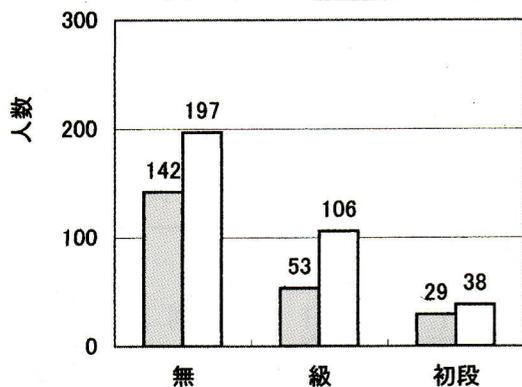
一般 □男子 □女子



高校生 □男子 □女子



中学生以下 □男子 □女子

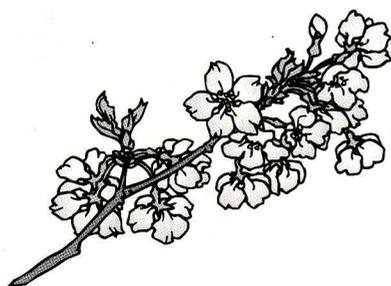


◎ 登録人数 (平成20年3月現在)

	男子				女子			
	中学生以下	高校生	大学生	一般	中学生以下	高校生	大学生	一般
無	142	267	8	15	197	309	9	28
級	53	185	0	1	106	228	0	2
初段	29	165	16	37	38	196	11	51
二段	0	188	20	105	0	277	10	110
三段	0	17	8	112	0	13	1	71
四段	0	0	1	133	0	0	0	81
五段	0	0	0	112	0	0	0	69
錬士五段	0	0	0	47	0	0	0	22
錬士六段	0	0	0	27	0	0	0	12
教士六段	0	0	0	26	0	0	0	8
教士七段	0	0	0	7	0	0	0	2
範士	0	0	0	4	0	0	0	1
小計	224	822	53	626	341	1023	31	455
	1725				1850			

◎ 地連一般会員の年齢構成 (平成20年3月現在)

	一般男子(大学生含む)				一般女子(大学生含む)			
	人員	平均年齢	最若年	最高齢	人員	平均年齢	最若年	最高齢
無段	24	35	17	69	39	31	15	67
初段	53	38	19	74	62	41	19	71
二段	125	43	19	78	120	38	18	79
三段	120	50	19	87	72	44	19	85
四段	134	52	20	86	81	52	22	79
五段	112	57	22	90	69	53	22	80
錬士五段	47	62	28	88	22	59	35	82
錬士六段	27	60	34	88	12	62	48	83
教士六段	26	68	51	87	6	62	42	81
教士七段	7	65	58	77	2	75	69	80
範士	4	73	60	81	1	93	93	93
男女別	679	51	17	90	486	45	15	93



H19年度 県外審査結果 (称号、六段以上)

[教士]	柴原一利子	水戸桜川	京都	2007.05.05
	吉田智夫	石岡	仙台	2007.07.06
	森昭正	石岡	仙台	2007.07.06
	小松正幸	霞ヶ浦	東京	2007.11.05
[錬士]	福井長作	霞ヶ浦	東京	2007.12.23
	佐藤三男	水戸市	長野	2007.06.10
	荻野三淑	鹿嶋	仙台	2007.07.08
	大井喜代子	神栖	仙台	2007.07.08
	中井美枝子	水戸桜川	埼玉	2007.08.11
	境貴洋	勝田	福島	2007.09.29
	山崎美清	水戸桜川	福島	2007.09.29
	飯泉至	取手	福島	2007.09.29
	佐藤里美	下館	群馬	2007.11.18
	久保山すみ	玉造	群馬	2007.11.18
	青井一也	鹿嶋	群馬	2007.11.18
	白井加代子	みと葵	滋賀	2007.12.01
[七段]	大高野光美	水戸桜川	東京	2007.12.23
	宮崎康	取手	東京	2007.12.23
	山村越憲	玉造	東京	2007.12.23
[六段]	栗根武志	鳴和	仙台	2007.07.07
	廣本洋道	石岡	東京	2007.11.06
	岡野史美	大洗町	推薦	2007.05.25
	米佐良三	土浦亀城	仙台	2007.07.07
		勝田	仙台	2007.07.07
		霞ヶ浦	福島	2007.09.30
		石岡	福島	2007.09.30
		土浦	東京	2007.11.04
		下館	東京	2007.11.04
		鹿嶋	東京	2007.11.04

県外講習会 参加者

関東北部地区 指導者(千葉)	関東女子 (横浜)	男子・女子中央 研修会(中央)	指導力向上 指導者(中央)	地連幹部 指導者(水戸)
安藤延典 川瀬政人 海老根芳江 塚田哲也 助川末廣	柴原一利子 安藤明子 塩津多恵子 廣水千加代 村上美保	張替謙一 海老根芳江	宮崎康美	明間勲 山村晋 塚田哲也
H19年6月 2~3日	H19年6月 30日~7月1日	H19年10月 12~14日	H20年2月 2~3日	H20年3月 1~2日

県内講習会 講師

月 日	講習会	主任講師	講 師
2月25日	三四段講習会	白石直之	川瀬政人、柴原一利子、小室セイ子
4月15日	五段講習会	明間 勲	安藤延典、川瀬政人、海老根芳江、安藤明子
5月26日	三四段講習会	市毛道子	宮崎康美、中井川一郎、萩野谷綾子、米山良美
6月24日	称号者講習会	久保田清	明間 勲、市毛道子
7月 1日	三四段講習会	木村喜久雄	助川末廣、濱野 昇、小松正幸、小堀富男
7月22日	支部指導者講習会	安藤延典	川瀬政人、塚田哲也、助川末廣
8月25日	学校指導者実技講習会	明間 勲	白石直之
9月17日	五段講習会	張替謙一	高橋輝子、山村 晋、萩沼信子
10月14日	称号者講習会	白石直之	

編集後記

「弓道いばらき」30号を無事発行することが出来ました。これも会員皆様のご協力と感謝しております。今回は茨城県弓道連盟会員の級段位称号別の構成人数および一般会員の年齢構成をグラフにして掲載いたしました。中学生・高校生の男女の比率を見ると中学生で1・52倍、高校生で1・24倍と女子の方が男子より多いことが分かります。しかし一般会員は1・4倍と男子の方が多くなっております。

一般会員の女子が少ないのは結婚・子育てと忙しいのが原因で、潜在的には中高生時代の経験者が多くいるものと考えられます。

今後、弓道人口を増やすことを考えれば子育ての終わった女子に現役復帰をしてもらうような体制を作る必要があると思われれます。

一般会員の年齢構成は各段位称号にわたり20歳前後から90歳近くまで広い範囲に分布していることが分かります。これは弓道が年齢に関係なく広く愛されている表れであると思われれます。

このように多くの方々へ愛される弓道の益々の発展のために皆様のご意見、ご協力をお願い申し上げます。

川又 正昭

広報部員

部長	宮崎康美
副部長	小野崎紀男
副部長	川又正昭
副部長	立川久泰
副部長	増田英一
日立地区	廣水千加代
水戸地区	稲葉健次郎
石岡地区	星 喜進
土浦地区	小林恵美子
鹿行地区	高橋輝子
県西地区	岡田耕一郎
県南地区	江幡恵一
中体連	佐川裕子
高体連	鳥居士郎
企画	萩野谷綾子
弓道誌	中井川美枝子
審査	安部容子
講習会	市毛克哉
競技	久本宣子
競技	大西敬子
競技	中井川一郎
ホームページ	山口裕利
ホームページ	

○御冥福をお祈り致します。

清水 博殿 (四段) 六十七歳

平成十九年十二月二十八日